

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	包帯 1	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（包帯固定学 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	難波 英樹	実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的					
<p>巻軸包帯で骨折等の整復位をいかに保持するのの研究、患部を毎日診察し、腫脹の状況によって包帯を調整したり、緩まない包帯、腫脹に対応できる包帯はどのようなものかの、洗った包帯を使用すること、包帯の巻き替えの工夫、患部の肢位の確保と転倒防止の配慮等々、先人たちの創意工夫が込められている学問である。この科目では、柔道整復師の施術の方法である固定法の基本を習得し、軟性固定材料や硬性固定材料の理解と作成を学び習得し、患者さんへ基本包帯を巻くことができる、材料を作成できるようになることがねらいである。</p>					
到達目標					
<p>多くの場合、巻き始めや巻き終わりに使う環行帯や第1行に第2行を1/2から2/3重ねて走行する螺旋帯、第1行と第2行の間に間隔をあけて螺旋状に巻いていく蛇行帯、包帯の走行を変更する場合や太さが一定でない部位を巻くときに使用する折転帯、主に屈伸運動を行う関節に用いられる亀甲帯といった基本包帯法の理解や金属副子や副木、厚紙副子といった硬性材料の作成、軟性材料の適切な使用方法を探究する力を身につけるために、固定の目的や巻き方を理解すること、基本包帯法を理解すること、軟性・硬性固定材料を理解し、習得することを到達目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	この包帯とは柔道整復師の行う施術法の中に含まれ、患部の安静を図るなどの手段として理解をする学問である。授業形態は、主に実技中心で包帯1では包帯に関する基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本包帯法の基礎となる技術を習得する。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	授業概要の説明 巻軸包帯について	巻軸包帯について裂を実技を交えて理解する。			
2回	巻き方と注意事項 固定の目的	なぜ固定を行わなければならないのか、順巻き、逆巻きと表巻き、裏巻きを実技を交えて理解する。			
3回	固定の範囲 固定の肢位	機能的肢位を理解し、範囲に関して年齢などで違うことを実技を交えて理解する。			
4回	基本包帯法(1)	基本包帯法（環行帯、螺旋帯）を実技を交えて理解する。			
5回	基本包帯法(2)	基本包帯法（蛇行帯、折転帯）を実技を交えて理解する。			
6回	基本包帯法(3)	基本包帯法（亀甲帯）を実技を交えて理解する。			
7回	基本包帯法(4)	基本包帯法（麦穂帯）を実技を交えて理解する。			
8回	振り返り(1)	1回～7回までの振り返り			
9回	部位での基本包帯法(1)	足関節の麦穂帯、亀甲帯を実技を交えて理解する。			
10回	部位での基本包帯法(2)	下腿の麦穂帯、肩関節の麦穂帯を実技を交えて理解する。			
11回	部位での基本包帯法(3)	膝関節の亀甲帯を実技を交えて理解する。			
12回	軟性固定材料(1)	軟性固定材料の種類の理解や軟性固定材料である厚紙副子を探寸、裁断、適合が出来る。			
13回	軟性固定材料(2)	実際に厚紙副子を使っでの固定を実技を交えて理解する。			
14回	硬性固定材料	軟性固定材料の種類の理解や硬性固定材料であるクラーメル副子を裁断、適合が出来る。			
15回	振り返り(2)	9回～14回までの振り返り			